

平成 29 年度
学校関係者評価報告書



学校法人 新潟総合学院
国際医療看護福祉大学校

「平成29年度 学校関係者評価」の実施結果と今後の課題について

学校法人新潟総合学院 国際メディカルテクノロジー専門学校における「平成29年度 学校関係者評価」は、平成29年6月5日に学内評価委員 12名により自己点検評価を行い、評価項目内容に従い改善が必要な箇所を確認し評価した。それを基に平成29年7月10日に学校関係者評価委員として学外から4名と学内から6名の計10名で学校関係者評価委員会を実施し、本書のとおり報告する。

なお、本校の自己点検・評価については、全国専門学校教育研究会の策定した自己点検・評価報告書「作成ハンドブック・作成マニュアル」を基本に、自己点検・評価を行い、不備な点等の改善について、今後の方向性を協議するとともに、次年度以降の取り組み課題とした。

平成29年度の学校関係者評価を受け一定の方向性を持って、学校評価を進めていくことにより、本校における質の保証・向上のなお一層の取組充実が図れるよう努めていきたい。

学校関係者評価報告書（「学校関係者評価委員会」報告）

平成28年度学校の教育目標として掲げている国家資格合格率及び就職内定率、退学率を振返り目標達成までにあと少し及ばなかった点を次年度の課題として、自己点検・評価報告書の点検・評価項目1～10を前年度と比較しながら取組状況や改善策等を報告した。その後、委員の皆様方から学校運営状況や自己点検・評価項目に関する意見やご指導をいただき報告書にまとめた。

1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1) 建学の精神(教育理念)

教育理念について、学内では在校生に対して学生便覧(一部パットデバイスによる電子閲覧可能)に記載し4月のオリエンテーションで伝えている。教職員には職員会資料等で周知を図っている。また、学外の方に対してはパンフレットやホームページ上に学校長の挨拶を含め、建学の精神(教育理念)を掲載し公表しており適切である。

2) 教育目的・教育目標

教育目的・目標等が定められ明文化もされており、学校パンフレットをはじめ学生便覧やホームページ上でも公表がなされている。また、学科毎の保護者説明会等で、学校の教育実績や運営状況、教育目的・目標を伝え理解と協力をいただいている。

2 教育の内容

1) カリキュラム作成等

学科毎に教員及び業界関係者等で組織した教育課程編成委員会を設置し、病院・施設等の有識者から意見をいただき職業教育に特化した実践的な教育課程の編成に繋げることができた。なお、教育課程編成委員会は年2回開催している。

2) 教授・学習プロセスの改善

学生による授業アンケートや評価に基づく学校側の改善活動は、教育上必要不可欠である。学生の授業評価は、今後も実施して指導・改善していくことはもちろんのこと、結果に基づく教員面接や研修、授業参観を組織的に取り組み実施している。

3) 業界ニーズに対応した付加的教育

リメディアル(導入前、補習)教育については、多種多様な学生への対応及び学生個々の能力を伸ばすための大切な教育であることから、個別指導や課題別の一斉指導を実施している。また、一部学科では必修ゼミ形式などで対応している。今後も継続して実施していくと共に、授業時間割等を鋭意工夫し精度を高めていく。

4) 教職員の資質の維持や向上

教職員の資質を維持し、その専門性や指導能力の向上を図るためにも、教職員に対する研修は必要不可欠である。外部機関が実施する学会や研修、新潟総合学院が実施する研修には積極的に参加している。今後も専門的知識・技術の維持向上に向けた研修計画を進めて行く。

【2-12の改善】

「授業参観を行っているか」について、福島県看護学校協議会で毎年授業見学の研究を実施しており、平成 29 年度は本校の教員による授業を他の学校の教員に観て貰い授業改善及び教育の質向上に努めている。また、救急救命士科や臨床工学技士科では保護者向けに演習授業の参観をおこなっている。

3 教育の実施体制

1) 教育環境の整備・活用

- ① 養成施設要件として、法的に設置が義務付けられている図書室及び関連図書の配置について整備されている。
- ② 学校内の整理・整頓や清掃に関するルール、環境エコ活動に関する規則及び実習時の安全対策に関する文書等の更なる周知徹底を図る。
- ③ 施設・備品等の定期的な点検・管理について、エレベーターの点検は定期的実施され、また、学校特有の機器についても定期点検は実施されている。
備品等の管理については、備品台帳を備えている。

4 教育目標の達成度と教育効果

1) 教育目標の達成に係る取組と評価

- ① 学生の就職に関する目標、就職活動の記録、結果の検証・報告、実績の公表についての適切な取り組みは評価できる。
- ② 資格・検定・大会に関する目標、結果の検証・報告、合格者・合格率の公表についても適切な取組の評価ができる。
- ③ 退学率の報告・公表についても、適切に取組み評価できる。ホームページ等での公表の実施している。
- ④ 卒業1年後の就業の把握・公表については、対応が不十分であり、企業訪問や同窓会等を利用して、その把握に努める必要がある。

【4-20の改善】

「卒業生の1年後の就職状況を把握しているか」について、郡山市内の病院を中心に卒業1年の就業状況を訪問して確認を進めている状況。県外の病院へは対応できていない。

5 学生支援

1) 学生支援体制の整備と組織的実行(入学前)

学校説明会や学校案内パンフレットなどで、入学対象者及びその方に関わる方々に対して、教育理念・目的・目標等が明示され取得予定資格、受験予定検定、参加予定大会等が明示され育成人材像を説明している。また、入学対象者に対して、入学前の学習指導や学生生活のためのオリエンテーションを実施している。

2) 学生支援体制の整備と組織的実行(在学時)

担任による定期的な面談を実施している。また、臨床心理士のスクールカウンセラーがメンタルケアをサポートしている。一方では教職員に対しては教務会などで学生指導の状況などをみんなで情報共有する機会を設けている。学生の面談記録や指導記録は文書化され保管されている。

3) 学生支援体制の整備と組織的実行(卒業後)

校友会が組織されており、毎年総会を開催し卒業生の活動状況を把握している。また、学校の周年事業など卒業生へ学校情報を発信している。なお、卒業生への職業紹介は、希望者が少ない状況であるが、今後は卒業後の支援を積極的に行っていくよう改善が必要である。

4) 上記以外の学生支援

保護者の会は組織されていない状況であり検討が必要。

学校情報は、保護者、高校などに定期的に発信されている。また、企業等に対しては求人依頼の際にリーフなどで情報発信している。

【委員会からの意見】

・5-10「キャリアサポート関連の有資格者(キャリアカウンセラー・キャリアコンサルタント・産業カウンセラー等)がいるか」について

→教務部長が資格更新をしていないが、研修を受けている状況。医療系の特徴として、学科教員が国家試験資格取得者であり業界での実務経験もあるので、職業教育指導はできている。

そういった状況であれば注釈を付ければ適正と評価しても良いのではないかと。求人開拓と就職指導が別に行われており問題ない。

6 社会的活動

地域における社会活動や社会貢献、ボランティア活動を学校全体として、年度計画に基づき実施している。年度途中でも地域・企業などからの依頼や自主的ボランティアにも取り組んでいる。一部の学科としては救急救命士科が社会的活動としてのボランティアを単位認定している。

7 管理運営

学校の管理・運営体制に関する評価項目は適切であった。特に被災経験を基に防災や非常時対策に対して文書化され、学生・教職員の安全安心を確保するための避難訓練を実施している。

8 財務

- ① 年度予算の執行については、統一された規程に基づき対応されている。また、予算実績の報告書は毎月報告が義務付けされており、チェック体制が確立されている。固定資産や図書、物品の管理についても適切に行われている。
- ② 法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。
今後の改善施策として、現状で直ちに改善しなければならない大きな問題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐える財務基盤の構築を行っていきたい。なお、学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

9 改革・改善

自己点検・評価委員会を設置し組織的に対応し、評価・改善を継続的に行っていく。また、自己点検・評価の結果を全職員で共有する機会を設けて行く。今後は、自己点検・評価の改善計画に基づく結果の検証を進める。

10 国際交流

国際交流に向けた取組がされている。留学生の受け入れについては適切な手続きがとられ、留学生の学習、生活指導についても学内に適切な制度が整備されている。また、学修成果が国内外で評価される取組を行っている。

【状況説明】臨床工学科および介護福祉科では留学生が在籍している。とても真面目で積極的に学業に励んでいる。今後は、介護福祉士の就労ビザが発給されることになり、ますます留学生は増えてくると思われる。その為、実習受入れ及び就職先の確保が必要になる。施設との連携を強化して行きたい。

【委員会からの意見】

退学状況について

・学習意欲の低下は学生指導が難しい。疾患を持っている学生への対応はどうしているか。

→臨床心理士の先生のカウンセリングを定期的に受けられるようにしている。治療が必要に場合には、保護者と相談して適切に対応しているが、その後の通院状況は個人のプライバシーもあるため深入り出来ない。

・アルバイトをしていて、欠席が多くなっている学生はどのように抑止しているか。

→経済的に厳しい学生がいる。社会経験として人間関係を構築するためにも良好な場合もある。生活の乱れなど注意が必要となっている。

・AO エントリーの入学者は高校在学中の勉強が疎かになってしまいがちである。次年度からはリメディアル教育を提供していきたいと考えています。入学が早く決まってしまうと基礎学力が低下しないように現況の継続を進めていく。

就職について

・病院受験時はとても良い状況が見られたが、入職してから変わってしまい悪くなっている。学校ではどのように考えているか。

→専門学校でも入学後に病気などの疾患が分ることがある。実習などを通して精神的にも強くなってもらえるように指導をしている。就職後の離職に繋がらないように病院と連携しながら進めていきたい。

総評として

・運営状況が分かりとても良かった。学校の指導だけでなく病院としても実習などで協力して良い人材を育てていきたい。

・実習受入れも協力していきたい。地元の病院だから出来ることは連携して、就職の受入れもできればありがたい。

・評価が良くなって来ている。努力している状況が伺えた。全日課程の入学者が増えるように更に努力をして欲しい。

・学校関係者評価委員を続けているが、どんどん良くなって来ている。大学校としての存在価値と貢献を果たして欲しい。

・地元貢献している状況が伺えた。とても感謝しています。

以上

◆学校関係者評価委員

No	所属 役職名	氏名
1	国際メディカルテクノロジー専門学校 元学校長	後藤 敦
2	県立福島工業高等学校 元校長	永山 三郎
3	あづま脳神経外科病院 理事 事務局長	寺島 長司
4	総合南東北病院 看護部長	窪 睦子
5	国際医療看護福祉大学校 学校長	佐藤 本実
6	国際医療看護福祉大学校 副校長	清水 一浩
7	国際医療看護福祉大学校 看護副校長	影山 かほる
8	国際医療看護福祉大学校 教務部長	岡崎 史紹
9	国際医療看護福祉大学校 事務局長	佐藤 隆浩
10	国際医療看護福祉大学校 看護事務局長	荒川 聖